

パネル3：(開発/支援ツール/環境)

**EPM:お手軽にリアルタイムの生データ
ー 開発者の立場からー**

SRA先端技術研究所(EASEプロジェクト)

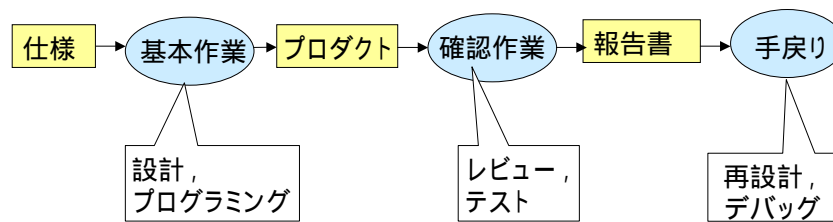
阪井 誠

謝辞

- 本研究の一部は、文部科学省「e-Society
基盤ソフトウェアの総合開発」の委託に基づいて行われた。

従来のプロジェクトの制御

- 一般にプロダクト(ドキュメント)を利用してプロジェクトは制御されてきた



=>手戻りの低減には詳細な情報が必要だが, 負荷の増加, 情報の遅延, 人為的なデータ操作, の問題がある

3

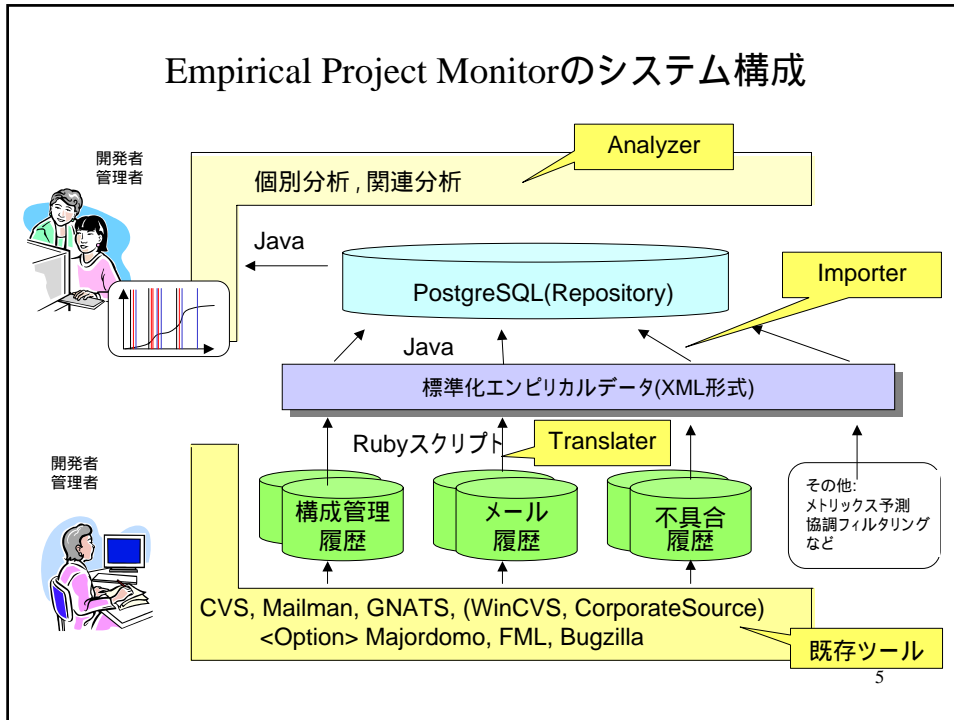
Empirical Project Monitor

—お手軽にリアルタイムの生データー

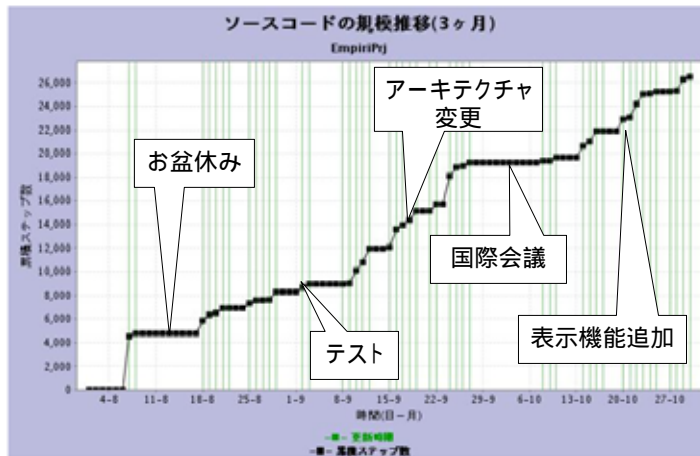
- メジャーなフリー開発ツールを利用し, データ収集の負荷がない
 - 構成管理ツール(CVS)
 - メールングリスト(Mailman)
 - 障害管理(GNATS)
(オプション: Majordomo, FML, Bugzilla)
- (最終成果物作成以前に)リアルタイムに開発者の振る舞いを知ることができる
- 人為的操作の少ないデータを分析

4

Empirical Project Monitorのシステム構成



ソースコードの規模推移



Why(開発者の立場から)

- 適応性:特別な作業付加やコストを必要としないデータ収集
 - 仕事の邪魔はするな!
- リアルタイム性:任意のタイミングでの参照
 - 開発中にも支援して欲しい
- 透明性:個人の経験に依存しない定量的な分析
 - 公平にリソース配分・支援をして欲しい

7

Where-to

3Kによらない開発をめざす

- 顔をうかがう
- 口先でごまかす
- (上下)関係

(質は異なるもののKKDはそれなりに必要?)

8